

高等学校の運動部活動における
生徒と保護者の関係性について

内藤通昭 高島二郎

玉川学園・玉川大学
健康・スポーツ科学研究紀要
第21号

■ 資料 ■

高等学校の運動部活動における生徒と保護者の関係性について

内藤 通昭*¹ 高島 二郎*²

要約

高校生が運動部活動を行うにあたって、保護者の影響力が少なからずあるのではないかと考え、A県立B高等学校運動部活動に所属する生徒1,2年生の部員とその保護者、運動部顧問教諭に対して、運動部活動に対する意識及び実態を明らかにする質問紙調査を行った。

調査内容としては、実施種目、平日及び休日の活動時間、平日及び休日の活動日数、そして運動部活動の楽しさ、目的、悩みなどであり、生徒及び保護者、教員について、それぞれ調査した。その結果、生徒と保護者について、運動部活動の楽しさや平日及び休日の適正な活動時間・日数における項目において相関関係がみられるとともに、「運動部活動を行う目的」と「運動部活動における悩み」について、生徒と保護者についてクロス集計を行い、カイ二乗検定を行ったところ、ほとんどの項目で有意差が見られたことから、「運動部活動の目的や悩み」について、生徒と保護者の間に連関性があることがわかった。

1. はじめに

教員の業務内容は、授業をはじめ、生徒指導、保護者に対する対応などこれまで以上に多岐にわたり、複雑化し多忙を極めている。そこで、運動部活動をどのように運営したらよいか、その在り方を考えるうえで、生徒や保護者及び教員の運動部活動に対する意識及び実態についての調査を行うとともに、その結果から生徒と保護者の親子の関係などについて分析していくこととする。

2. 方法

(1) 調査対象者

A県立B高等学校運動部活動に所属する生徒1,2年生の部員とその保護者、そして、B高等学校の運動部顧問教諭(部活動種目は、陸上、水泳、サッカー、テニス、バレーボール、バスケットボール、ハンド

ボール、野球、バドミントン、弓道、ラグビー、ダンス、チアリーディング、その他)に対して質問紙調査を行った。

それぞれの人数は、生徒数750人(内訳1年生男子174人、1年生女子226人、2年生男子137人、2年生女子213人)、顧問教諭数35人(男性25人、女性10人)、保護者986人(男性493人、女性493人)であった。

(2) 調査期間及び調査方法

令和2年1月20日(月)～令和2年1月27日(月)に部活動の顧問教諭より、生徒とその保護者の質問紙を封筒に入れて生徒に手渡し、回答後顧問教諭に封書したものの回収を依頼した。

また、運動部活動以外の生徒については、各担任の教員よりアンケート用紙を配布・回収してもらった。顧問教諭については、それぞれ封筒に入れて手渡し、回答

*¹ 玉川大学大学院教育学研究科教育学専攻、神奈川県総合教育センター

*² 玉川大学教育学部乳幼児発達学科

後封書した上で回収した。

なお、解答用紙には、番号をつけて、生徒と保護者のひも付けを行ったが、個人が特定されないよう配慮して実施した。

また、調査に際しては、研究倫理綱領に従い実施した。

(3) 調査内容

調査内容については、スポーツ庁が行った平成 29 年度「運動部活動等に関する実態調査」（以下国の調査とする）の調査項目から生徒・保護者・教員に対して「実際の平日及び休日の活動時間・活動日数、運動部活動の目的、運動部活動における悩み、平日及び休日の適正な活動時間・活動日数」を参考にした。また、平成 25 年に神奈川県教育委員会で行った「中学校・高等学校生徒のスポーツ活動に関する調査」（以下神奈川県調査とする）についても合わせて参考にして質問項目を作成した。^{1) 2) 3)}

調査実施にあたっては、T大学の学生を対象に予備調査を行い、調査項目の検討を行った上で実施した。

生徒については、はじめに属性を聞き、運動部活動への加入の有無を尋ね、加入していない生徒については、保護者の高校生の時の運動部活動への加入状況を調査した。

これは、保護者の高校時代の活動歴が子どもに対して影響があるかを調べるために行ったものである。以降は、運動部活動に加入している生徒を対象として調査を行った。

次に、運動部活動の実施状況として、実施種目、平日及び休日の活動時間、平日及び休日の活動日数、そして、運動部活動の楽しさ、目的、悩みについて、調査した。目的と悩みについては、それぞれ2つずつ回答させた。

そして、適正な活動時間と日数について、平日と休日にそれぞれ分けて調査を行った。

保護者について、はじめに属性を聞き、次に高校生の時の運動部活動への加入の有無を尋ね、加入していた保護者については、その種目を調査した。

次に、自分の子どもの運動部活動の実施状況について、実施種目、平日及び休日の活動時間、平日及び休日の活動日数、そして、保護者として子どもが行っている運動部活動が楽しく見えるか、保護者としての運動部活動の目的、悩みについて、調査した。

なお、目的と悩みについては、それぞれ2つずつ回答させた。

そして、保護者としての適正な活動時間と日数について、平日と休日にそれぞれ分けて調査を行った。

教員については、はじめに属性を聞き、次に高校生の時の運動部活動への加入の有無を尋ね、加入していた教員については、その種目を調査した。

次に、平日及び休日の活動時間、平日及び休日の活動日数、そして、教員として生徒たちが行っている運動部活動が楽しく見えるか、教員として運動部活動を指導する目的、悩みについて調査した。

なお、目的と悩みについては、同じようにそれぞれ2つずつ回答させた。

また、教員においては、指導する上での改善点について調査した。

そして、教員として、指導する上で適正な活動時間と日数について、平日と休日にそれぞれ分けて調査を行った。

(4) 回答者数

生徒においては、生徒数 750 人（内訳 1 年生男子 174 人、1 年生女子 226 人、2 年生男子 137 人、2 年生女子 213

人)のうち、全体で586人(内訳 1年生男子134人、1年生女子183人、2年生男子98人、2年生女子171人)78.1%の回答率であった。また、運動部活動加入生徒については458人に対して405人の回答数88.4%の回答率であった。

保護者については、運動部活動加入生徒数458人の保護者に対して調査を行ったところ、男性96人、女性378人、計474人、内79人が両親で回答を行っていることから、395件の回答数で86.2%の回答率があった。

また、顧問教諭については、35人中35人100%の回答率であった。

3. 調査結果

(1) 生徒の集計結果

はじめに、運動部活動の実施状況について尋ねた。

問1として「運動部活動の種目」について尋ねたところ、405人の回答数があり、内訳は、陸上26人、水泳10人、サッカー43人、テニス25人、バレーボール15人、バスケットボール36人、ハンドボール29人、野球20人、バドミントン12人、弓道28人、ラグビー23人、ダンス126人、チアリーディング10人、その他2人であった。

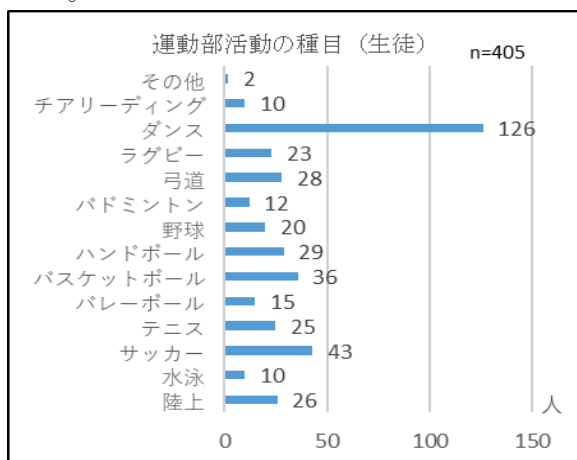


図1 運動部活動の種目 (生徒)

次に、問2として「平日における1日の活動時間」を見てみると、図2にあるように、2~3時間が52.5%と最も多く、これは、国の調査(47.0%)や神奈川県調査(43.9%)も最も多い結果であった。次いで1~2時間が42.6%と多くなっている。

問3として、「休日における1日の活動時間」を見てみると、図3にあるように、1時間未満が34.8%と最も多い結果となったが、これは、選択肢に「なし」がなかったためであり、実際には「活動していない」と思われる。次いで3~4時間が32.8%と多くなっている。

問4では、「1週間のうち平日の活動日数」を見てみると、図4にあるように、4日が79.3%と大半を占めており、(国の調査では5日が63.3%と最も多い)次いで、3日14.3%と多くなっている。

問5では、「1週間のうち休日の活動日数」を見てみると、図5にあるように、2日が38.2%と最も多く、次いで、なしが33.0%と多くなっている。

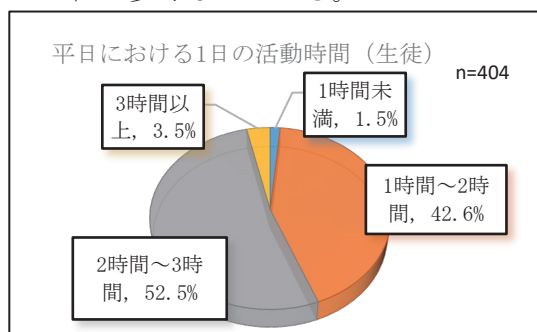


図2 平日における1日の活動時間 (生徒)

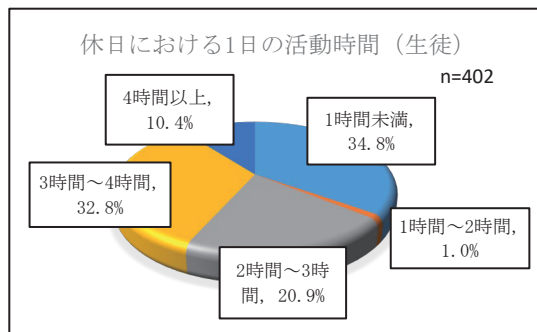


図3 休日における1日の活動時間 (生徒)

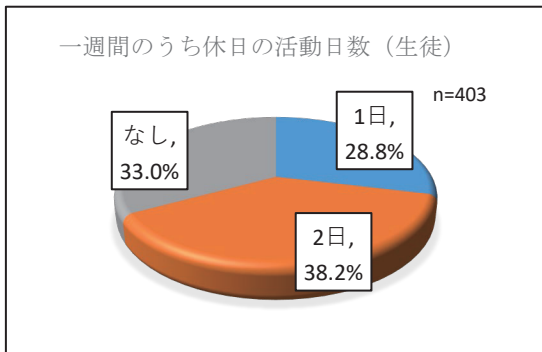


図4 一週間のうち平日の活動日数 (生徒)

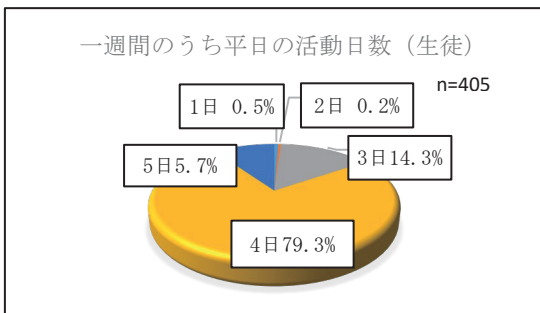


図5 一週間のうち休日の活動日数 (生徒)

次に、問6として「運動部活動は楽しいか」と尋ねてみると、図6にあるように「楽しい」が64.3%、「どちらかといえば楽しい」27.2%と両者を合わせると91.5%（神奈川県調査 85.7%）とほとんどの生徒が運動部活動は楽しいと感じている。

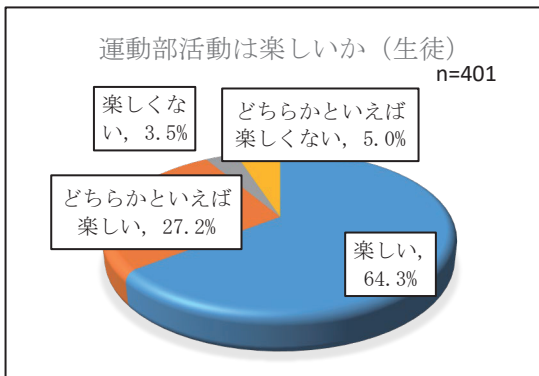


図6 運動部活動は楽しいか (生徒)

そして、問7では、「運動部活動を行う目的」について（2つまで）尋ねてみると、図7にあるように「仲間づくり」が26.0%、次いで「スポーツそのものを楽しむ」23.2%、「生活を楽しく豊かにする」19.3%と多くなっており、本来、スポーツ

は勝敗や出来栄を競うものであるが、「勝つ喜びを味わう」については、6.2%と選択肢6つの中で最も少ない状況であった。そして、問8では、「運動部活動における悩み」について（2つまで）尋ねてみると、図8にあるように「勉強する時間がない」が18.6%と最も多く、次いで「上手にならない」15.4%、「休みが少ない」が13.9%と多くなっている。

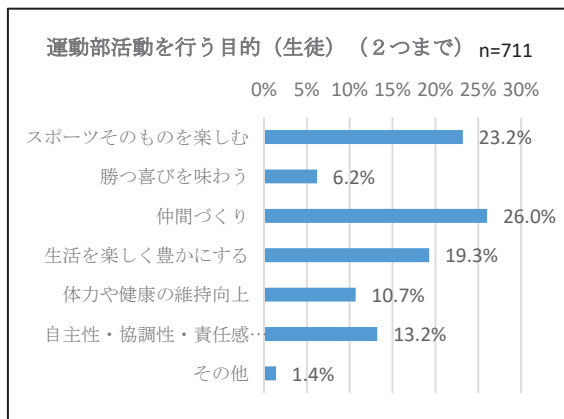


図7 運動部活動を行う目的 (生徒) 2つまで

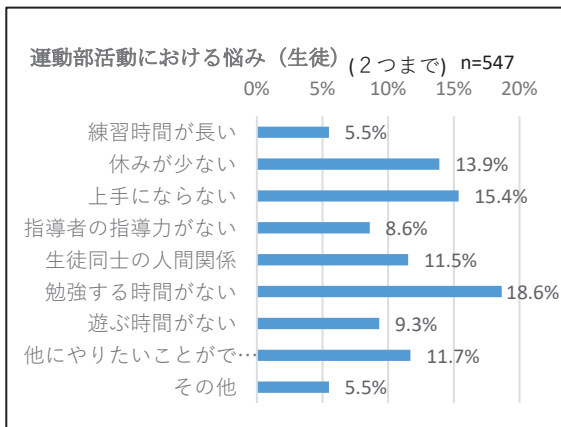


図8 運動部活動における悩み (生徒) 2つまで

次に、運動部活動について、適正な活動について尋ねた。

はじめに、問1として、「平日における1日の適正な活動時間」を見てみると、図9にあるように、1～2時間が50.7%と最も多く、(国の調査41.3%、神奈川県調査49.0%と最も多い) 次いで、2～3時間が44.8%と多くなっている。

問2として、「休日における1日の適正

な活動時間」を見てみると、図 10 にあるように、2～3時間が44.7%と最も多く、次いで、3～4時間が25.6%と多くなっている。

問3として、「1週間のうち平日の適正な活動日数」を見てみると、図11にあるように、4日が67.9%と最も多く、次いで、3日が23.9%と多くなっている。

問4として、「1週間のうち休日の適正な活動日数」を見てみると、図12にあるように、1日が61.2%と最も多く、次いで「なし」が21.6%と多くなっている。

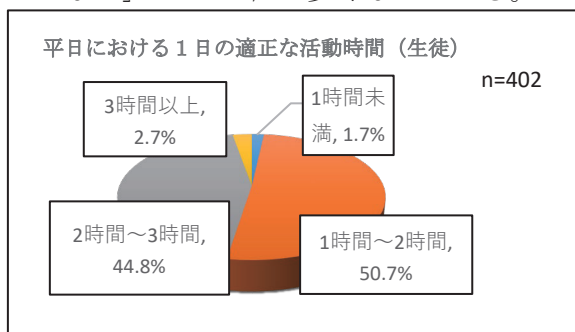


図9 平日における1日の適正な活動時間(生徒)

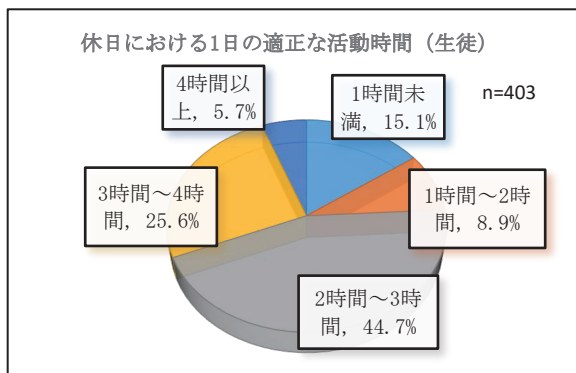


図10 休日における1日の適正な活動時間(生徒)

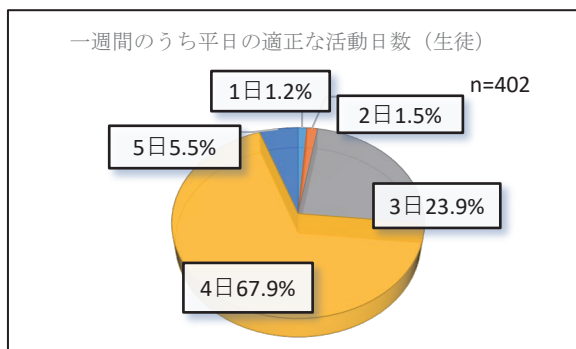


図11 1週間のうち平日の適正な活動日数(生徒)

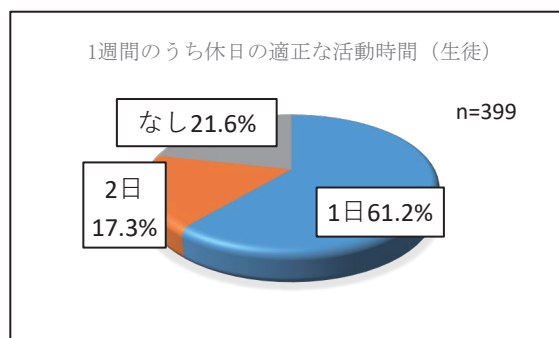


図12 一週間のうち休日の適正な活動日数(生徒)

(2) 保護者の集計結果

はじめに、「保護者の属性」について尋ねたところ、問1「年齢」については、40代が64.7%と最も多く、次いで50代が30.7%、30代が3.8%の順に多くなっている。

また、問2性別は、男性が20.3%、女性が79.7%であり、両親で回答した保護者は、16.6%であった。

次に、問3「高校生の時に運動部活動に加入していたか」を尋ねたところ、56.4%が加入しており、43.6%加入していなかった。そして、運動部活動に加入していた保護者に、「実施種目」について尋ねたところ、図13にあるように、テニスが23.2%、バスケットボールが14.4%、バレーボールが10.6%、陸上が8.7%の順に多かった。

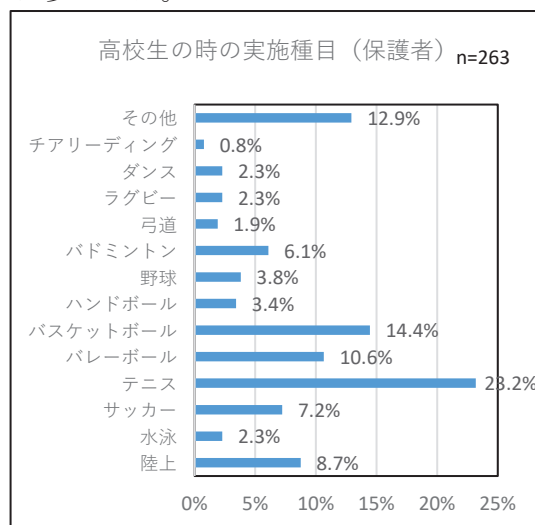


図13 高校生の時の実施種目 (保護者)

次に、子どもの運動部活動の実施状況について尋ねたが、この調査項目については、生徒と同様である。

はじめに、問1として「平日における1日の活動時間」を見てみると、2～3時間が56.4%と最も多く、次いで1～2時間が38.9%と多い。

次に、問2として「休日における1日の活動時間」を見てみると、3～4時間が32.3%と最も多く、次いで、1時間未満が31.1%と多い。

問3として「1週間のうち平日の活動日数」を見てみると、4日が74.8%と大半を占めており、次いで、3日14.4%と多い。

問4として「1週間のうち休日の活動日数」を見てみると、2日が41%と最も多く、次いで、なしが31.4%と多い。

次に、問5として「運動部活動は楽しそうか」と尋ねてみると、図14にあるように「楽しそう」が67.9%、「どちらかといえば楽しい」27.9%とほとんどの保護者が子どもの活動を楽しそうだと感じている。

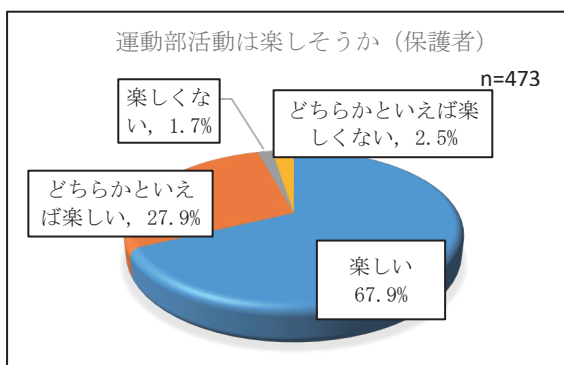


図14 運動部活動は楽しそうか (保護者)

また、問6として「運動部活動を行わせる目的」について(2つまで)尋ねてみると、図15にあるように「自主性・協調性・責任感など人間形成」が27%と最も多く、次いで「仲間づくり」が26.3%、「スポーツそのものを楽しむ」17.8%と多くなっ

ており、スポーツを通じた人間形成や仲間づくりが運動部活動を行わせる目的となっている。「勝つ喜びを味わう」については、3.3%と生徒以上に低い比率になっている。

そして、問7として「運動部活動における悩み」について(2つまで)を尋ねてみると、図16にあるように「勉強する時間がない」が25.6%と最も多く、次いで「休みが少ない」が13.3%、「生徒同士の人間関係」が10.3%と多くなっている。

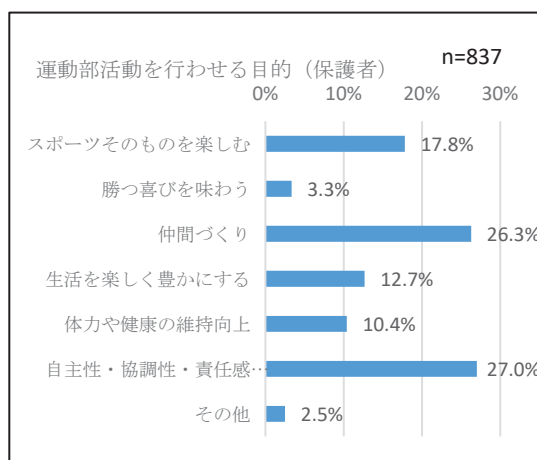


図15 運動部活動を行わせる目的 (保護者) (2つまで)

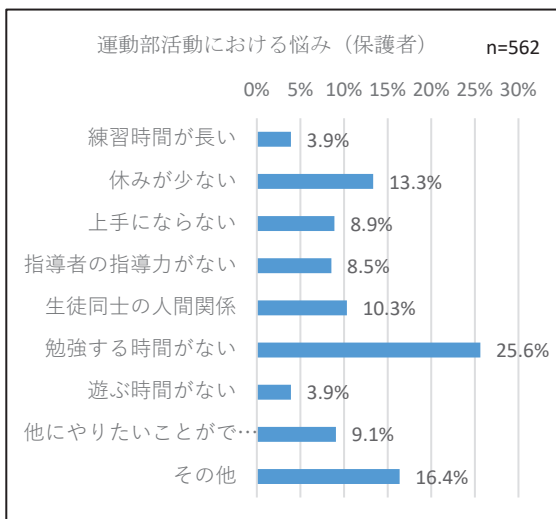


図16 運動部活動における悩み (保護者) 2つまで

次に、運動部活動について、適正な活動について尋ねた。

はじめに、問1として「平日における1日の適正な活動時間」を見てみると、図17にあるように、2～3時間が53.5%と最も多く（国の調査45.9%と最も多い）、次いで、1～2時間が44.6%と多くなっている。

次に、問2として「休日における1日の適正な活動時間」を見てみると、図18にあるように、2～3時間が37.7%と最も多く、次いで、3～4時間が35.6%と多くなっている。

また、問3として、「1週間のうち平日の適正な活動日数」を見てみると、図19にあるように、4日が69.9%と最も多く、次いで、3日が19.2%と多くなっている。

最後に問4として「1週間のうち休日の適正な活動日数」を見てみると、図20にあるように、1日が59.8%と最も多く、次いで2日が21.8%と多くなっている。

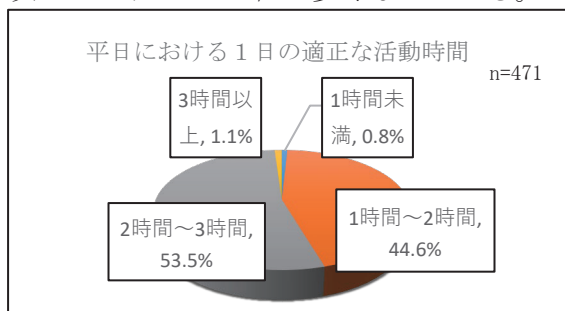


図17 平日における1日の適正な活動時間(保護者)

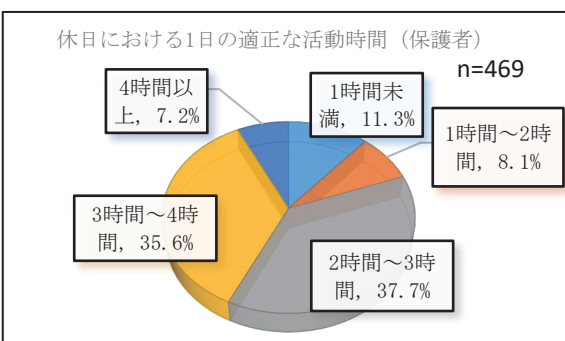


図18 休日における1日の適正な活動時間(保護者)

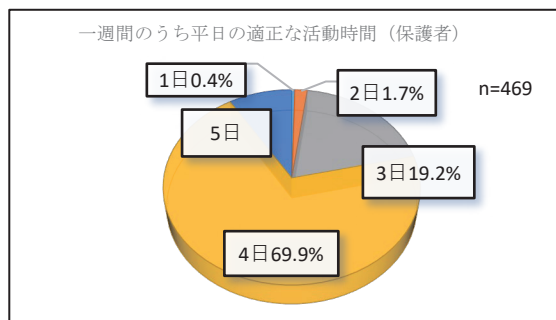


図19 一週間のうち平日の適正な活動日数(保護者)

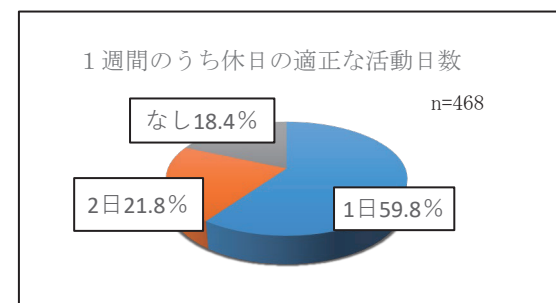


図20 一週間のうち休日の適正な活動日数(保護者)

(3) 生徒と保護者の関係

運動部活動を行うことについて、生徒と保護者の親子関係が何かしらの影響があると考えていたことから、その関係性について分析することとした。⁴⁾

そこで、表1「運動部活動の楽しさ」、表2「平日及び休日の運動部活動の適切な活動時間や活動日数」について、生徒と保護者の関係を見てみると、相関係数は、いずれも1%水準で有意差があることから、相関関係があることがわかった。

また、「運動部活動を行う目的」と「運動部活動における悩み」について、生徒と保護者についてクロス集計を行い、カイ二乗検定を行ったところ、「運動部活動を行う目的」のうち表3～6の「仲間づくり」、「楽しむため」、「生活を楽しく豊かにする」、「勝つ喜びのため」は0.1%水準、表8「人間形成のため」は1%水準で有意差があった。また、「運動部活動における悩み」については、表9～14「練習時間が長い」、「休みが少ない」、「上手にならない」、「指導者の指導力がない」「生徒同士の人

間関係」、「勉強する時間がない」、「他にやりたいことができない」については0.1%水準、表15「遊ぶ時間がない」は5%水準で有意差があった。こうしたことから、生徒と保護者の間に連関性があることがわかった。

相関		楽しそう (保護者)	
楽しいか (生徒)	r	.626**	
	P	0.000	
	N	386	

** 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。
* 相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。

表1 「運動部活動の楽しさ」について生徒と保護者の相関

相関		保適平時	保適休時	保適平日	保適休日
生適平時	r	.354**	.206**	0.094	-0.055
	P	0.000	0.000	0.064	0.280
	N	386	386	386	386
生適休時	r	.177**	.584**	0.082	-.354**
	P	0.000	0.000	0.108	0.000
	N	386	386	386	386
生適平日	r	0.094	0.050	.239**	0.005
	P	0.065	0.327	0.000	0.916
	N	385	385	385	385
生適休日	r	-0.036	-.349**	-0.016	.440**
	P	0.483	0.000	0.752	0.000
	N	383	383	383	383

** 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。
* 相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。

表2 「平日及び休日の運動部活動の適正な活動時間や活動日数」について生徒と保護者の相関

表 部活動の目的(楽しむため)クロス集計				
		楽しむため(保護者)		合計
		いいえ	はい	
楽しむため(生徒)	いいえ	174	54	228
	はい	94	65	159
合計		268	119	387

$x^2 = 13.009$ $df = 1$
*** $p < 0.001$

表3 運動部活動の目的 (楽しむため)

表 部活動の目的(勝つ喜びのため)クロス集計				
		勝つ喜びのため(保護者)		合計
		いいえ	はい	
勝つ喜びのため(生徒)	いいえ	332	13	345
	はい	34	8	42
合計		366	21	387

$x^2 = 17.033$ $df = 1$
*** $p < 0.001$

表4 運動部活動の目的 (勝つ喜び)

表 部活動の目的(仲間づくり)クロス集計				
		保護者		合計
		いいえ	はい	
生徒	いいえ	140	69	209
	はい	66	112	178
合計		206	181	387

$x^2 = 33.346$ $df = 1$
*** $p < 0.001$

表5 運動部活動の目的 (仲間づくり)

表 部活動の目的(生活を楽しく豊かにする)クロス集計				
		保護者		合計
		いいえ	はい	
生徒	いいえ	210	45	255
	はい	87	45	132
合計		297	90	387

$x^2 = 13.178$ $df = 1$
*** $p < 0.001$

表6 運動部活動の目的 (生活を楽しく豊かに)

表 部活動の目的(体力や健康の維持向上)クロス集計				
		保護者		合計
		いいえ	はい	
生徒	いいえ	266	52	318
	はい	51	18	69
合計		317	70	387

$\chi^2 = 3.626$ $df = 1$
n.s.

表7 運動部活動の目的(体力や健康維持向上)

表 部活動の目的(人間形成のため)クロス集計				
		保護者		合計
		いいえ	はい	
生徒	いいえ	168	132	300
	はい	34	53	87
合計		202	185	387

$\chi^2 = 7.738$ $df = 1$
** $p < 0.01$

表8 運動部活動の目的(人間形成のため)

表 部活動の悩み(練習時間が長い)クロス集計				
		保護者		合計
		いいえ	はい	
生徒	いいえ	346	12	358
	はい	21	8	29
合計		367	20	387

$\chi^2 = 34.148$ $df = 1$
*** $p < 0.001$

表9 運動部活動の悩み(練習時間が長い)

表 部活動の悩み(上手にならない)クロス集計				
		保護者		合計
		いいえ	はい	
生徒	いいえ	289	16	305
	はい	59	23	82
合計		348	39	387

$\chi^2 = 37.082$ $df = 1$
*** $p < 0.001$

表10 運動部活動の悩み(休みが少ない)

表 部活動の悩み(休みが少ない)クロス集計				
		保護者		合計
		いいえ	はい	
生徒	いいえ	283	33	316
	はい	43	28	71
合計		326	61	387

$\chi^2 = 36.704$ $df = 1$
*** $p < 0.001$

表11 運動部活動の悩み(上手にならない)

表 部活動の悩み(指導者の指導力がない)クロス集計				
		保護者		合計
		いいえ	はい	
生徒	いいえ	314	28	342
	はい	31	14	45
合計		345	42	387

$\chi^2 = 21.600$ $df = 1$
*** $p < 0.001$

表12 運動部活動の悩み(指導者の指導力がない)

表 部活動の悩み(生徒同士の人間関係)クロス集計				
		保護者		合計
		いいえ	はい	
生徒	いいえ	300	25	325
	はい	38	24	62
合計		338	49	387

$\chi^2 = 45.298$ $df = 1$
*** $p < 0.001$

表13 運動部活動の悩み(生徒同士の人間関係)

表 部活動の悩み(勉強する時間がない)クロス集計				
		保護者		合計
		いいえ	はい	
生徒	いいえ	226	66	292
	はい	52	43	95
合計		278	109	387

$\chi^2 = 18.192$ $df = 1$
*** $p < 0.001$

表14 運動部活動の悩み(勉強する時間がない)

		保護者		合計
		いいえ	はい	
生徒	いいえ	326	11	337
	はい	44	6	50
合計		370	17	387
$\chi^2 = 7.912$ $df = 1$ * $p < 0.05$				

表 15 運動部活動の悩み（遊ぶ時間がない）

4. 考察

「生徒にとっての運動部活動」は、本来自分の興味・関心のあるスポーツの「楽しみ」を求めて行うものである。

今回の調査において「91.5%の生徒が楽しい」とほとんどの生徒が運動部活動を楽しめているようである。また、運動部活動は、勝つことよりも、スポーツを通じた「仲間づくり」を目的として行っているようである。このことは、「国の調査」においても、「良いと思う点」として「チームワーク・協調性」に次いで「仲間づくり」をあげている。また、「運動部活動における悩み」については、「勉強する時間がない 18.6%」が最も多く、「国の調査」においても、「学業との両立」という選択肢ではあるが、最も多くなっている。

また、「保護者にとっての運動部活動」も「ほとんどの子どもたちが運動部活動を楽しんでいる」と考えており、運動部活動を行う目的は、「自主性や協調性・責任感などの人間形成」というように運動部活動を通じて子どもたちの人間的な成長を願っている。

そして、生徒及び保護者における「運動部活動における悩み」については、「勉強する時間がない」と言いつつも、同じ質問の選択肢にある「練習時間が長い」（生徒 5.5%、保護者 3.9%）という不満は多くなかったことから、この「運動部活動と勉強」の間には因果関係は、ないように思わ

れる。

そして、生徒と保護者の親子関係には、運動部活動を行う上で、すくなく影響があると考えていたが、「運動部活動の楽しさ」、「平日及び休日の運動部活動の適切な活動時間や活動日数」について、生徒と保護者の関係を見てみると、相関係数は、いずれも 1%水準で有意差があることから、相関関係があることがわかった。また、「運動部活動を行う目的」と「運動部活動における悩み」について、生徒と保護者についてクロス集計を行い、カイ二乗検定を行ったところ、「運動部活動の目的や悩み」について、生徒と保護者の間に連関性があることがわかった。

なお、今回の調査報告においては、生徒とその保護者の関係を分析することを目的としていることから、教員の調査結果については、報告しないこととした。

5. 参考文献

- 1) 文部科学省、「運動部活動での指導のガイドライン」, 2014.
- 2) スポーツ庁「運動部活動等に関する実態調査報告書」, 2017.
- 3) 神奈川県教育委員会, 中学校・高等学校生徒のスポーツ活動に関する調査報告書, 2014.
- 4) 出村慎一, 健康・スポーツ科学のための統計学, 大修館書店, 2007, 234-244.